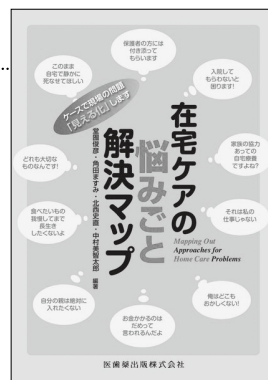


## 『在宅ケアの悩みごとと解決マップ』 ケースで現場の問題「見える化」します』

堂園俊彦・角田ますみ・北西史直・中村美智太郎 編著

●定価 3,520 円(税込み) ●B5 判 160 頁 ●医歯薬出版刊

●発行年月：2023 年 3 月 ●ISBN978-4-263-73212-0



### ケースを通して理念を行動に移すことの大切さ

本書は在宅ケアに携わる専門職が度々遭遇する悩ましいケースを16事例取り上げており、そのケースを起点に在宅ケアで普遍的に活かすことのできる様々な概念を学んでいくという構成になっている。ケースは一見複雑でどこから取り組めばよいのか、頭を抱えるようなものが多いのだが、まず「問題を見える化」することでケースに潜む課題を浮き彫りにし、その課題を解決するために「問題を考えるためのヒント」が道しるべとして提示されていく。具体的には、アドバンス・ケア・プランニング、ケアの社会化、セルフネグレクト、リーダーシップ、エフェクチュエーション、パーソン・センタード・ケア、意思決定支援、スピリチュアルケアなど、多様かつ重要なテーマが古典的なものから最新のトピックまで幅広く網羅されていると言ってよいだろう。

評者も長年在宅ケアに取り組むなかで、患者個人、家庭、地域、さらには制度などが絡み合うケースをたくさん経験していたが、その多くはケースが持つ本質的な課題が見えた時点で初めて次のステップに進むことが可能になり、最終的に解決に至ることが多かった。課題が見えないなかで対症療法的なアプローチを繰り返しても、まだ同じ問題が起きるだけである。そうした経験からも本書の構成はたいへん実践的であり、現場で働く方にとってはすぐに応用できることばかりであろう。

また、本書には「一人ひとりの尊厳を大切にす」という基本姿勢が一貫して示されている点も素晴らしい。＜その人らしさの尊重＞、＜傷つけない＞、＜健康を守り、豊かなものにする＞、＜等しく尊重する＞という姿勢は医療・介護職者にとっては当然守るべきものであるが、多忙で心の余裕がない状況では気づかないうちにこうした姿勢が欠けた対応をすることも珍しくない。理念を唱えるだけでなく、ケースを通して理念を行動に移すことの大切さ。本書はそうしたメッセージにも満ちている。多くの在宅ケアに携わる方に是非読んで頂きたい本である。

(草場鉄周／医療法人北海道家庭医療学センター理事長)